

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100834		
法人名	社会福祉法人ゆうなの会		
事業所名	グループホームコスモス 2		
所在地	那覇市識名2丁目13番57号		
自己評価作成日	平成26年11月14日	評価結果市町村受理日	平成27年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JizyosyoCd=4770100834-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成26年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

識名の住宅街に位置し館内はグループホーム他、5事業所が併設され地域からの相談を多機能的にサポートできる地域に根差した施設を目指しています。利用者が落ち着いて生活して頂けるよう1人ひとりの生活ペースを大切に利用者の思いに寄り添うケアを心掛けています。現在のADLを維持して頂くために、毎日のリハビリ体操や歩行訓練等を行い下肢筋力運動に取り組んでいます。ご家族に安心して頂けるよう毎月、お便りや電話連絡にて利用者の生活の様子をお伝えし、面会時には要望等の相談を伺い、ご家族の希望に添えるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の母体法人は様々な介護サービス事業を展開し、利用者の求めるサービスを提供している。その1つのセクションとして、デイサービスや有料老人ホーム等を含めた複合施設を現地に開設して3年目を迎え、利用者が地域で安心して生活できることを目指している。今年度から毎月発行している「コスモス便り」に、利用者毎に個別のコメントを記入して家族に発送している。現住所を事業所に変更した利用者にはレターボックスを個別に準備し、家族の面会時に郵便物などを手渡している。利用者の生きがい支援も実施し、生け花を教えていた利用者が毎月生け花サークルに参加することを支援し、月1回は事業所でも利用者全員が活動に参加して、利用者の活けた花が事業所内にも飾られている。利用者の役割も介護計画に位置づけ、個別計画に沿って記録できるシステムを採用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成27年3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや勉強会前に職員全員で理念を唱和している。また理念を事業所内に掲示し確認・意識することで、ケアに反映できるようにしている。	理念は、法人の経営理念と経営ビジョン、行動指針で構成されている。事業所内に掲示し、毎月の勉強会やミーティング、職務会で唱和し、今年度は地域に出て行くことを目標にした支援に努めている。法人の理念からは、地域密着型サービスの意義が読み取れない状況である。	法人の経営理念、及び行動指針に基づき、これまで積み重ねてきた実践の取り組みも踏まえて、地域密着型サービス事業所独自の理念の検討が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の情報収集を行い、可能な限り参加できるように支援を行い、交流づくりに努めている。また近隣の園児との交流も定期的に行っている。	当事業所は、デイサービスや有料老人ホーム等を含む複合施設の2階と3階に設置されている。施設全体で自治会に加入しているが、グループホーム自体の自治会活動への参加はほとんどみられない。近隣に老人福祉センターがあり、センターまつり等に参加する程度である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域と共に支え合う関係を構築できることを目標にしている。問い合わせや相談も気軽にできるように対応させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの状況の報告のみでなく、現状の課題やご家族の要望等も話し合い、意見をサービス向上に活かせるようにしている。また人材育成の貢献として大学生の実習の受け入れを行っている。	利用者と家族も参加し、2か月に1回定期的に推進会議を開催している。会議では利用者の状況や活動状況、介護事故、ヒヤリ・ハット、外部評価結果等を報告している。行政職員からの意見が多く、地域代表の委員の意見は確認できなかった。会議の議事録は掲示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村担当者と運営推進会議や連絡会において、事業所の状況等を情報交換し協力関係を築けるように取り組んでいる。	市のグループホーム連絡会に参加して市担当者と定期的に情報交換をし、研修の情報等が得られている。管理者は、事業所の情報提供やケアプランの相談等で必要に応じて行政の窓口を訪れている。困難事例等は、法人内で相談できる体制がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やミーティングで、身体拘束の具体的な行為について確認している。また安全面を理由に利用者の行動を抑制しないよう日頃から見守り・状況把握・人数確認・所在確認など安全確保に努めている。	高齢者虐待や身体拘束について研修を実施し、「帰りたい」との訴えに対する対応や言葉掛け、センサー対応等、具体例を出して検討している。必要に応じて家族と話し合い、ベッドを低くして床にマットを敷き、センサーマットの使用をプランに位置づけて対応している利用者がある。エレベーターは長押しで開き、階段の扉を開けるには暗証番号が必要である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	故意の虐待、自覚のない虐待が発生しないように、管理者は職員と個別で話し合う機会を設け、不適切な言葉の対応がないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や後見人制度について個々の必要性がある場合、対応できるようにパンフレット等を準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には、重要事項説明書も用いて解りやすく内容を説明し、項目毎に気になる事や疑問がないか尋ねながらご理解、納得して頂けるように配慮している。事前に不安や疑問に思っている事を面会時に家族の意見や要望を聞くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で入居者の思いや意見を確認し、ご家族の面会時にご意見を伺うようにしている。運営推進会議での意見や要望等は、申し送りで話し合っている。玄関先に意見箱を設置し、家族や外部からの意見を反映できるようにしている。	利用者の意見は日々のケアの中で直接聞き、家族の意見は、面会時や運営推進会議を聞く機会にしている。「コスモス便り」に利用者ごとにコメントを記入して毎月家族に送付しており、家族から「職員の名前がわかれば声もかけやすい」と要望が出され、対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の気づきや提案等を聞くように心掛け、意見や要望等は個別面談やミーティングで話し合い、業務内容を定期的に見直している。	職員の意見はミーティングや個別面談で聞いており、業務内容をその都度見直している。提案により、休憩時間の確保やソファの購入、汚れた下着専用の洗濯機の購入を行った。職員の異動はできるだけグループホーム内に留め、新任職員には現任が1ヶ月程マンツーマンでついている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や人事考課を年2回実施し、職員個々の目標や取組み状況を確認し、向上心を持ち、就業できるように努めている。職員の実績は評価し、給与に反映できる仕組みとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の事業所での勉強会や、外部研修会の情報を提供している。職員のスキルに合った研修へ派遣し、参加後は、報告書を提出し、研修内容を職員間でも共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会主催の研修会へ参加し、交流を行い、他グループホームの見学や事例検討等を通して、事業所外の意見や経験をケアに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、本人やご家族と面会し、本人の心身状態や要望、不安な思いを理解するように努めている。安心して生活が送れるよう、職員は、本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に、家族が困っている事・不安な事・要望等に耳を傾け、事業所としてどのように対応できるか事前に話し合いをしている。入居後も、いつでも相談頂ける様、ご家族の都合の良い時間に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族にホームを見学して頂いたり、直接本人に会いに行くなど、面談や会話の中で希望をお伺いし、必要なサービスの提供・情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを共感し、理解し、寄り添い穏やかに日々楽しく過ごせる様努めている。又日常の家事やイベントの準備を一緒に行い共に暮らす同士として関係を築ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子を面接時に報告し情報を共有している。誕生日・イベント等をご本人と家族が一緒に行い楽しみ過ごせるように共に支えていく関係を継続できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から友人や家族の方が気軽に訪ねてこれ雰囲気作りを心掛けている。またなじみの美容室を継続できるように支援している。	生け花を教えていた利用者が毎月教室に出かけ、知人とコンサート等に出かける方もいる。馴染みの美容室に職員が付き添い、店員と利用者の若い頃の話をする事もある。地域社会での関係性は本人や家族に聞いて把握し、家族が持参したハーモニカを吹く利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士も関係性を大切にしながら、みんなで楽しく過ごす時間や職員も間に入り会話を持つようにし、利用者同士がうまくかわり合いを持つように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者へ、これまでの暮らしが継続できるよう、本人の状況・支援内容・注意が必要な点について情報提供し、いつでも相談出来るよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけの中で、言葉、表情などから本人の意思をくみ取るよう努めている。家族の方から情報を得たり、職員間でも話し合い可能な限り本人の意思に添えるよう取り組んでいる。	利用者の思いや意向は見守りを通して判断したり、浴室や居室で1対1になったときに聞くように努めている。困難な場合は声かけ時の表情や仕草で把握している。若い頃の職業を活かして編み物をしたり、職員が糸を通すと服の裾かがりやボタン付けをする利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく暮らしていく事を支援するために、本人の会話の中からも生活歴やライフスタイルを把握するように努めている。本人から聞き取れない場合は家族から情報を得ようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム・食事・睡眠・排泄等を把握し体調の変化を確認、本人の出来る力・わかる力を生活の中で発揮できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会話の中から本人の意向を確認し日頃の生活の様子を記録している。家族へ生活の様子をお伝えし本人・家族の意見・要望等が反映できる介護計画を作成している。	利用開始時にアセスメント記録が作成され、年1回担当者会議を開催してケアプランの見直しをしている。介護支援専門員がケアカンファレンスに参加して介護職員と情報を共有する仕組みが取られていないため、ケアプランと支援内容が連動していない。	介護職員と介護支援専門員との連携、ケアカンファレンスの充実強化、及び利用者の課題を介護計画に反映させ、目標と支援内容を一致させる取り組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態変化などを個別に記録する。業務前に情報を確認し、利用者の状態に変化があれば介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望・意見を参考に、ご家族との急な外出、訪問マッサージ、訪問歯科、受診や送迎等の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源(町のスーパー・図書館・消防など)を把握し、協力を得ながら利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し受診結果に関する情報を共有している。また、本人・家族が希望するかかりつけ医は継続して利用して頂き、受診時に生活の様子や体調を伝えている。	医療機関は家族の選択となっているが、協力医療機関での受診は、職員が送迎や受診対応の支援を行うため、利用開始後にかかりつけ医を変更した利用者が殆どである。受診結果は家族に電話等で報告している。医師との連携が密に取れており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの健康管理・観察事項は毎日記録している。毎週定期的に訪問看護師が来所し、日頃の状況を報告。24時間連携体制なので、利用者の体調に変化が見られた場合即時報告、適切な医療へつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐ為、利用者の心身の状況の変化や生活情報等をご家族や医療機関への確に伝え話し合い、入院時には職員が2～3日に1回見舞う様にしている。又ご家族とも回復状況等情報交換し速やかな退院支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い早期から、ご家族又は利用者の日頃の生活を元に、医療機関・職員と連携体制を組み、安心して終末期を迎えられる様随時意志を確認しながら取り組んでいる。	事業所の方針は「重度化した場合における対応に関する指針」で明文化している。看取りの支援は、医療体制が整うまでの間は適切な機関に繋げる支援を行う、となっている。重要事項説明書にも明記し、家族へ説明して理解を求めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間帯、緊急時の対応マニュアルは作成され、いつでも目の届くところにあり、関係機関との連携がスムーズに行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の方々の協力を得て、日中・夜間、両方を想定しての避難訓練を実施している。職員も消火器の点検、使用方法も学んでいる。	避難訓練は複合施設全体で年2回行い、総合訓練も実施している。全体の通報設備は2階のグループホームに設置され、設備等は完備している。地域の協力員として3人が登録されている。備蓄は法人本部の特養ホームに準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、プライバシーを尊重し、本人の気持ちを大切に、入居者の目線に合わせ、分かりやすい言葉で声掛けするよう心掛けている。	利用者一人ひとりが異なる人格であると意識し、生活歴等を念頭に置き、会話するように努めている。家族との会話は居室で行うことを勧め、入浴や排泄等は同性介助を基本としている。施設便りへのスナップ写真の掲載等は、同意書で確認しており、プライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者一人ひとりの表情や希望、好みを把握し、利用者自身が自己決定できる場面を作り、満足して頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に配慮しながら、一人ひとりのペースを大切にその日の気持ちを尊重し外出（ドライブ・買い物）や入浴、洗濯たたみ等の作業は、本人の希望で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、ご本人の好みを確認しながら決め、自己決定がしにくい利用者は職員と一緒に考え支援している。ヘアスタイルは、本人の意向を確認し家族の了解を得てカットや毛染めを行ったり、馴染みの美容院でカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表の記入や盛り付け、配膳、片付け等入居者個々に合った活動を共に行い、入居者と同じテーブルで楽しく食事出来るよう心掛けている。	食事は施設合同の厨房で調理し、食管で配食している。盛り付けや片づけ等に参加する利用者もいる。BGMを流し、ゆったりした雰囲気の中で、職員も一緒に食事を摂っている。箸は個人用を使用するようにし、持ちやすさの異なるコップも数種あり、摂食の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の体調や一日の摂取量を把握し、個々の状態に合わせた食事量、形態を提供している。水分補給は手作りゼリーを準備し無理なく摂取できるようこまめに提供している。		

沖縄県（グループホーム コスモス 2）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアのうがいには、衛生水を使用している。利用者の状態に合わせガーゼ、舌ブラシ等の物品を使用し、声掛け、見守りを行い、口腔内の確認、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者によってコールや尿意の訴えがある方は、トイレへ誘導介助をしている。意思表示が出来ない方は、時間を見て声掛けトイレへ誘導を行うようにしている。陰部・臀部など皮膚トラブルのある方は、綿布などで皮膚の刺激を少なくするよう工夫している。	排泄は、約半数の利用者が介助を要しており、チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導等を行っている。紙パンツ使用から綿パンツに移行した利用者もいる。便秘対策として、水分補給に留意し、腹部マッサージ等も実施して、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄パターンを記録し、水分補給を徹底し、毎日のリハビリ体操・がんじゅう体操、散歩など体を動かすようにしている。便秘の方には、腹部を温めマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望によって、曜日を変更したり、時間帯をずらしている。入浴中は声かけし、自力入浴できるように見守りや一部介助を行っている。	入浴は週3回で午前、午後いずれでも希望により対応している。入浴のない日は、足浴を実施している。利用者の状況に応じて毎日入浴の必要な場合も適宜対応している。入浴拒否に対しては、時間や日を変えたり、話し合っただけでその気になるまで無理強いはいないなどの対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクや体操などの活動を促している。昼食後は居室で休むか、フロアでくつろいでいただく等、個々の生活リズムに合わせてストレスのない工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は名前を確認し、飲み込みも最後まで見届けている。処方箋を綴り、いつでも職員が薬の内容を把握できるようにしている。薬の変更があった時には、他職員に情報を提供し副作用がないかを様子観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合った作業をお願いしたり、利用者全員でゲーム等に参加して頂いている。他の階や屋上、近隣の公園に花を見に行き季節を感じたり、気分転換が行えるよう支援をしている。		

沖縄県（グループホーム コスモス 2）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの習慣や希望に合わせた外出支援に努めている。生け花教室や図書館、買い物などの外出は定期的に行っている。短時間でも、4階屋上や近隣での散歩を行い外気浴・日光浴で気分転換を図っている。	外出可能な利用者は、気分転換として浜下りやドライブ、敬老ピクニック等に参加し、日常的には階下への散歩や屋上でのお茶会などに参加している。個人的には、買い物や生け花教室への参加の継続支援を行っているが、重度者等ほとんど外出しない利用者もいる。	重度の利用者も含め、できるだけ全員が外出できる機会を増やし、気分転換等が図れるような、工夫を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、家族と相談し本人の力に応じて支援するようにしている。外出時には、職員が管理のもと利用者が支払いを行える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族へ連絡したい時は自由に電話を使用できるようにしているが、家族の意向で夜遅くや仕事中等は、時間を変更して連絡できるようにしている。ご家族からの手紙には、返事が出来るよう支援を行い、継続して文通が行えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、高窓があり、風を入れたり、換気を行い、フロアのベランダには、ゴーヤーや花を植え、収穫や水やりを職員と共に行っている。フロアの壁面には、季節を感じられる利用者の作品を飾っている。	フロアを中心に左右に居室がある。職員室もフロアに面したカウンター式で、フロアからも見渡せる造りである。間接照明や白熱灯を使用し、採光の配慮や時間を設定した換気も行っている。浴室や脱衣場を含め、全館冷暖房設備が完備し、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの角にソファを置いたスペースがあり、個人又は、利用者同士や面会者とのコミュニケーションの場として利用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前にご自身が作られた物や思い出の品、写真などを飾り当時の事を思い、居心地良く過ごせる様に配慮している。	居室には、洗面所とトイレ、クローゼット、ベッドの設備がある。カウンターテーブルには、私物のテレビやラジオ、写真やぬいぐるみ等があり、居室はそれぞれの好みでレイアウトされ、居心地よく過ごせるよう、家族も一緒に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの身体機能に合わせて部屋の入り口などに目印を付けたり、安全に移乗できるようベッドの高さや物の配置に配慮し自立した生活が送れるよう支援している。		